



アカエゾマツの大径木林を 目指す森づくり

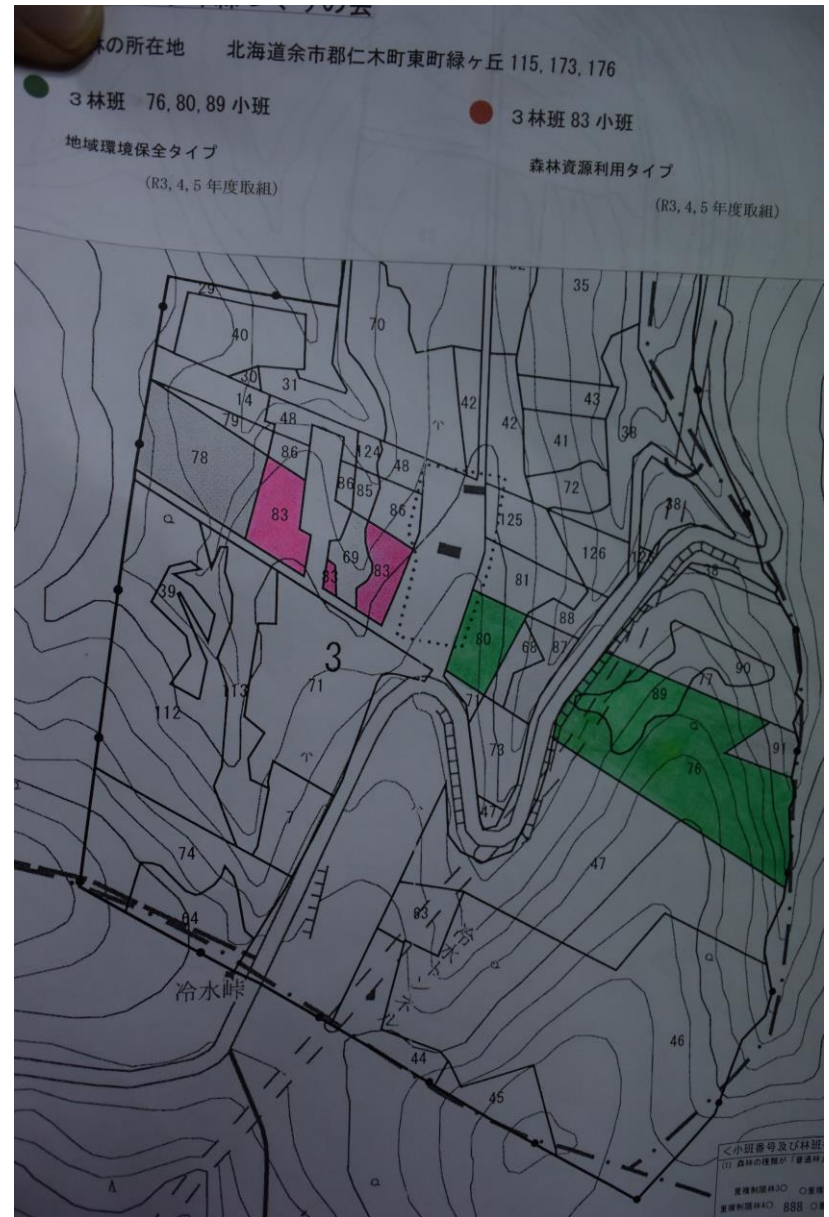
冷水峠森づくりの会





周囲には長年手入れが行われず、
放置されてきたために、
荒れ放題の森林があった。





2020年度施業面積内訳

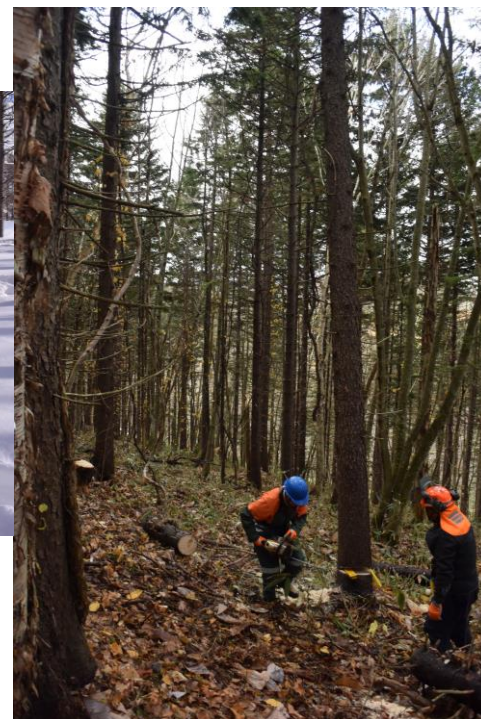
(森林調査簿による)

森林の現況					タイプ	施業内容
箇所	小班	樹種	林齢 (年)	面積 (ha)		
3 林班	83	カラマツ	59	0.92	森林資源利用	
	80	カラマツ	53	0.56	地域環境保全	
	76	T-L	79	3.32	同上	
	89	T-L	79	0.60	同上	
合計				5.40		

取り組みの趣旨、目的、内容など(1)

カラマツの人工林(80小班)

カラマツの人工林は、主にササ刈りと間伐を進め、広葉樹の稚樹を育てながら、針広混交林を目指していく。残す将来木を決め、ササ密度や広葉樹の若木の成長度合いを見ながら、伐る木を決めていく。



森林資源利用タイプのカラマツ人工林(83小班)

調査地(20×20m)の資源量 18.58m³。

活動地(0.92ha)の資源量 427.34m³。

木材利用年数 20年 ➡ 年間利用目標 10.68m³。

カラマツ材の薪の販売

1m³ 16,500円



取り組みの趣旨、
目的、内容など(2)

アカエゾマツの
人工林
(76,89小班)





標準地全木調査(20m × 20m)

アカエゾマツ 14本 林齢78年生 平均胸高直径33cm
平均樹高22m 立木材積15.20m³ → 1ha換算 350本 380m³
広葉樹 14本 ミズナラ・マカバ・シナノキ・ハリギリ・カツラ・ホオノキ
～資源価値の高い針広混交林～



取り組みの成果と課題・今後の展開(1)

カラマツの人工林は、針広混交林を目指してのササ刈りと間伐を進めてきました。カラマツの間伐材の薪以外の活用が今後の課題です。

- ・製材
- ・ぶどう園の支柱材
- ・薪ボイラーの燃料



取り組みの成果と課題・今後の展開(2)

アカエゾマツ・広葉樹混交林～22年後に「樹齢100年の森」

- ・大径木林を目指して、生育環境の整備
- ・広葉樹資源の活用

製材

木材加工

炭焼き



取り組みの成果と課題・今後の展開(3)

森林空間を利用した地域住民との交流・連携で、まちづくりへ

- ・冬の森林観察会
- ・ブービー笛づくりワークショップ
- ・クリスマスリースづくり

